

令和2年度山梨大学教育学部附属中学校外部評価書

令和3年3月1日(月)
令和2年度学校関係者評価委員会 作成

I 目標の達成状況に対する意見

- ・今年度は、臨時休業中の動画配信、行事の精選・縮小、入試日程・内容の変更等、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながらの教育活動であった。そのため、例年通りの活動やこれまで大切にしてきた活動が十分に行えない面もあったが、教職員や生徒の主体的な動きによって、オンラインで実施する等、コロナ禍でできる教育活動を最大限行っていた。

II 取り組みの状況に対する意見

- ・公共交通機関利用に関するマナー指導は、学区の広い附属中学校にとって、伝統的に大切にしてきた、いわば特徴とも言える指導の一つである。今後も生徒の安心・安全のために職員全員で意識的に取り組んで欲しい。
- ・情報提供に関して、今年度ICTを活用した授業実践等を地域に発信したが、地域の学校のためになっているという声が評議員の耳にも届いた。今後も山梨県のパイロット校として継続して欲しい。

III 自己評価方法に対する意見

- ・自己評価の精度をより高めるために、来年度から一つ一つの改善策についてA(できていた)~D(できていなかった)の評価をつけることは、非常に興味深い。
- ・昨年と比較すると、課題がより重点化されており、自己評価書の内容も精選され、昨年以上に「わかりやすい」内容となっている。

IV その他

- ・コロナ禍でICTの活用が一気に進んだが、来年度も「不易と流行」を意識しながら、「きりのは探究サイクル」等の山梨大学附属四校園での共同研究を進めるといった附属中ならではの良さを大切にしたい教育活動をして欲しい。また、新年度から新学習指導要領が全面実施となるが、1月末に出された中央教育審議会の答申(個別最適な学びと協働的な学びのハイブリッド化)も意識しながら、より良い教育活動のために改善努力を継続して欲しい。

記載責任者(附属中学校 学校関係者評価委員会) 黒澤 新吾

